

地区内の工場と連携



工場見学会を
通じ住民と
良好な関係を

地区内の工場と連携したコミュニティづくりに取り組もうと、定期的に工場見学会を開催しています。工場の関係者から直接話を聞き、内部の様子を見学することで信頼関係を築いています。工場は、地区の夏祭りに協賛し、駐車場を住民のために開放。

また、地区内の清掃活動には工場職員も参加しています。こういった交流を重ねることで、住民から「工場から音がする」といった不安の声が挙がっても、赤坂正治会長は気軽に工場に連絡して確認するなど、良好な関係が苦情防止にもつながっています。

住民同士のコミュニケーション の大切さ

外出困難のお年寄りを
「住民ドライバー」がサポート



地区住民の大切な足となる「テクテク」

外出困難のお年寄りの「足」となる支援に取り組んでいます。ドライバーとなる住民有志が、自家用車で通院や買い物などの送迎をするボランティアです。

少子高齢化が進み、市の中心部から離れた久之浜地区では、お年寄りが外出するには一苦労。免許返納の社会的な波もあり、外出困難のお年寄りを住民で送迎できないかと、1年の準備期間を経て、平成29年11月にスタートしました。

外出支援ボランティアの名前は「テクテク」。平成30年6月時点で、住民有志ドライバーは3名、利用者は毎月9～14名います。利用希望のお年寄りは、事務局を務める会長に連絡してドライバーと日時を調整。料金表はありませんが、利用者は気持ち程度の謝礼を払っています。

区長・会長の想い

「テクテク」は今や、利用者から「これがないとここに住めない」と言っていただけるようになりました。住民同士のコミュニケーションが取れていないと、独自事業を実現させるのは難しいでしょ

う。「テクテク」のシステムをつくるのに、保険会社の元職員や元警察官の住民と相談でき、協力を得られたことがとても大きかった。仲間づくりが進むと、人材の発掘にもつながると実感しています。

木田 寿夫 会長

お年寄りの味方 「お助け隊」 参上！

アイデアを得る
情報交換で
他地区との



頼りにされている「お助け隊」の皆さん

お年寄りを支援する「お助け隊」活動の活発化に力を入れています。活動のアイデアを得ようと、他地区との交流も積極的に行ってています。これまで小名浜、常磐や勿来の自治会・町内会と情報交換。ある地区でお年寄り宅に出向く“出張”カフェが展開されているのを知り、これを参考にして移動カフェを始めようと検討しています。

さらに、困っているお年寄りがすぐに連絡できるようにと、連絡先が書かれた「なんでもたのめる『お助け隊』」のオリジナル

ステッカーを作成。冷蔵庫に貼れるようマグネット付きの工夫もしています。

サポートーのスキルアップも課題になり、平成29年度は網戸張り替え、庭木剪定、障子張り替えの講習会を3回開きました。サポートーが増えれば地区に関心を持つ住民も増えると考えつつ、「サポートーが増えないのが一番の課題」と下野信一区長。サポートーを増やすべく、年3回、回覧でメンバー募集を呼び掛けられています。

区長・会長の想い

役員は「大変」というイメージが強いかもしれません、やってみると地域の人の生活が見えて刺激になります。

自治会の活動は、「お助け隊」以外にも、高齢者支援の一環で始まった「カラオケ愛好会」も活発です。そのほか、玉川自治会で取り組んでいる交通安全や

防犯、自主防災活動にも積極的に関わっています。

色々な活動を通して、住民の趣味や能力を地域に生かせる仕組みをつくると、生きがいや介護予防にもつながります。もっと住民の交流を活性化させて、地区を発展させていきたいです。

下野 信一 区長



道路沿いに美しい花々が咲き誇ります

1番誇れること

花でいっぱいの
国道を
めざして

住民は毎年、地区内の国道6号沿いの花壇を整備して、ドライバーの目を楽しませています。平成17年度には国土交通省の大賞を受け、勿来地区住みよいまちづくり推進協議会主催の花いっぱいコンクールでも、平成30年に6年連続となる最優秀賞に輝いています。住民約280名は4月から11月の期間中、当番制で草引きなどを管理。国道6号と関田跨(こ)線橋の交差点近くにある花壇には、ヒマワリ、カンナ、ハツユキソウ、マリーゴルドが咲き誇り、馬上昌幸会長は「関田で1番誇れること」と胸を張ります。